

プラン・ユースグループ

2024-2025年 活動報告書



PLAN YOUTH GROUP
for Plan International

2025年8月

目次

1. Introduction

- 1.1. プラン・ユースグループとは
- 1.2. プラン・ユースグループの 2024-2025

2. ユースグループ全体の活動

- 2.1. YAP ALLの開催
- 2.2. 豊島区若者居場所会議への参加

3. アドバイザリーの活動

- 3.1. 組織意思決定への参画
- 3.2. 国内支援事業
- 3.3. マーケティング・コミュニケーション部との連携
- 3.4. 海外との連携
- 3.5. 支援者との交流
- 3.6. わたカフェの移転および事務所リフォームに関するアドバイジング
- 3.7. 事務局内での認知度向上の取り組み

4. アドボカシーの活動

- 4.1. 性的同意に関する調査・報告
- 4.2. SNS等による発信
- 4.3. その他の活動

1. Introduction

1.1. プラン・ユースグループとは

国際 NGO プラン・インターナショナルは、女の子が本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらし、世界が直面する課題解決に世界 80カ国以上で取り組んでいます。2013 年より、若者の組織における意思決定への参画がグローバルで謳われるようになり、2014 年に日本のプラン・インターナショナルにもユースグループが設置されました。

プラン・ユースグループの活動は、大きくアドバイザーチームとアドボカシーチームに分かれています。アドバイザーチームでは主に、プランの理事会や役員定例会への出席など組織意思決定への参画のほか、国内支援事業へのアドバイジング、部署との連携、海外ユースグループとの交流の実施をしています。アドボカシーチームは、プランのアドボカシーグループと協働しており、主に、若者のジェンダー観などに関する調査やそれに基づく提言活動、イベント開催や SNS による啓発活動を実施しています。



1.2. プラン・ユースグループの2024-2025

| | アドバイザー | アドボカシー |
|----------|---|---|
| 2024年 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 役員定例会参加 ● 年間・担当ごと目標・活動計画設定 ● 過去のアドバイザー活動に関するインプット ● カルロス氏によるメンバーズ総会に関するインプット ● 事務局移転 内装会社決め会議参加 & 意見出し | <ul style="list-style-type: none"> ● 朝日新聞記者島崎周氏からの性教育に関するインプット ● PLAN職員齋藤氏からのユースクリニックに関するインプット ● マリウス葉氏との対談 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局長とのミーティング ● 理事会事前インプット ● アジア太平洋地域人道支援マネジャー ウニ・クリシュナン氏と対談 ● 事務局移転 | <ul style="list-style-type: none"> ● Girl's Lab ジェンダーもやもや座談会取材(11月掲載) ● NPO法人ピルコン理事長染矢明日香氏からのインプット ● わたカフェスタッフ(助産師)鈴木淳子氏からのインプット |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 理事会事前インプット ● 理事会参加 ● マーケティング・コミュニケーション部へ国際ガールズ・デーイベントの広報についてのアドバイジング ● 事務局移転 ショールーム内見同伴 ● YAP ALL ● 国内支援事業グループわたカフェのアップデート ● YAP認知度調査 | <ul style="list-style-type: none"> ● セックスセラピスト高森由香氏からのインプット ● 男女共同参画センター横浜北(アートフォーラムあざみ野)訪問・対談 ● わたカフェ訪問 ● ピルコンユースフェス参加 ● SRHRスタンディングアクション参加 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 国際ガールズ・デーイベント参加 ● 豊島区若者居場所会議への登壇 ● 多摩支援者の会と交流 ● Plan UKオフィス訪問 ● 事務局長とのミーティング ● 支援者の会「多摩の会」と交流 ● Plan Australiaのユース ヤスミン・プール氏との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査の質問作成 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 支援者の会「名古屋の会」と交流 | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査のスクリーニング、分析 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 役員定例会参加 ● わたカフェTikTokアドバイジング開始 ● 事務局長とのミーティング | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査の本調査、分析 ● Instagramでミーティング活動報告の開始 ● Instagram分析結果共有、意見交換 ● 次年度の活動についての意見交換 |

| | | |
|-------------|---|---|
| 2025年 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ● わたカフェリニューアルオープニングセレモニー登壇 ● 職員向けアドバイザーメンバー紹介Webサイト作成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査の報告書作成作業(内容の選定、デザインの作成) |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ● わたカフェ宣材写真撮影協力 ● 事務局長とのミーティング | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査の報告書作成作業(内容の選定、デザインの作成) |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 全国支援者の会参加 ● 東京マラソンボランティア参加 ● 民主主義ユースフェスティバル出展 ● 役員定例会参加 ● 国際女性デーイベント登壇 ● 事務局主催国際ICTガールズ・デーイベントに向けたマーケティング・コミュニケーション部とのミーティング | <ul style="list-style-type: none"> ● 性的同意に関する調査の報告書完成 ● 省庁訪問(内閣府、文科省) ● 民主主義ユースフェスティバル出展 ● PLAN職員からのメディアアプローチに関するインプット |
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新規メンバー採用説明会・選考 ● 職員向けアドバイザーメンバー紹介Webサイトリリース ● マーケティング・コミュニケーション部へPlan公式SNSへのアドバイジング ● 国際ICTガールズ・デー参加 ● わたカフェ潜入調査 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新規メンバー採用説明会・選考 ● 性的同意調査報告書メディアリリース ● 産婦人科医高橋幸子先生からのインプット、議員訪問打ち合わせ ● 議員訪問(石井苗子議員) ● 朝日新聞、東京新聞、信濃毎日新聞へのメディアアプローチ |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新メンバー加入 ● オリエンテーション開始 ● 理事会参加 ● メンバーズ総会に関するルールブック作成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新メンバー加入 ● オリエンテーション開始 ● 男女共同参画センター横浜フォーラム訪問・対談 |

2. ユースグループ全体の活動

2.1. YAP ALLの開催

今年度はアドバイザーとアドボカシーの合同ミーティング、通称YAP ALLを2024年9月、12月、2025年4月に開催しました。9月のYAP ALLでは、プラン事務局が執筆した『ジェンダー・ディスカッションブック SDGsで学ぶ！性別格差がない未来』(合同出版)を用いてワークショップを開催し、国内外のジェンダー問題について意見を交わしました。本書のお題にそってメンバー同士で日頃から感じていることや、自らの経験を共有する様子を出版会社に取材していただき、後日、記事にまとめてもらいました。ワークショップの他にも、事務局の職員によるマナー研修にも参加し、「プラン・ユースグループ」の一員として、自信を持って対外的に活動するためのインプットを受けました。

12月には、ユースグループ出身で現在プランの理事を務めているゲレーロホセ・カルロス氏(以下、カルロス氏)を招き、キャリア講演を行いました。カルロス氏からは、ユースグループの経験がどのように就職活動や仕事において活かされているかや、就職活動において大事な視点について語ってもらいました。学生として進路について考える機会も多いユースメンバーからは多くの質問や相談が寄せられ、それぞれ将来のキャリアについて向き合う時間となりました。

4月に開催したYAP ALLでは、今年度の活動を振り返り、次年度の方向性について話し合いました。また、合同ミーティングの機会を活かして、アドボカシーとアドバイザーのメンバーがお互いのチームの活動を体験する時間を設けました。両チームは普段は別れて活動をする事が多いなか、役割を入れ替えて活動を体験することで、お互いの強みや特徴について身を持って学ぶことができました。

今後もYAP ALLを通じて定期的にアドボカシーとアドバイザーの交流・連携の機会を創出することで、プラン・ユースグループとしての活動の強化を図っていきます。



2.2. 豊島区若者居場所会議への参加

2024年10月に豊島区若者居場所会議に参加し、「若者に届きやすいSNS」というテーマで発表を行いました。豊島区若者居場所会議とは、東京都豊島区を拠点に活動する行政機関と民間団体が集まり、若者の支援事業に関する情報を共有するために定期的に行われている会議です。プラン事務局も国内の若者を対象とした支援事業「わたカフェ」を豊島区で行っているため毎回会議に出席しており、私たちユースグループの参加は2023年の参加以来、2度目になります。今回は「ユースと SNS の『リアル』」というテーマのもと、若者の間で使われるSNSの種類や傾向に関する発表を行いました。今回はSNSにまつわるより実践的な情報として、若者が関心を持つSNSプラットフォームの活用方法をユース目線でまとめ、共有しました。

当日は、アドボカシーとアドバイザリーの両チームからメンバーが参加し、それぞれの知見を活かして発表をしました。アドボカシーチームは日々のSNSの運用のノウハウをもとに、ターゲットとなる若年層の関心を得やすい投稿の頻度やデザインなど発信のポイントを伝えました。アドバイザリーチームは、会議に参加している団体の実際のSNSやホームページに対して、それぞれ良い点や改善点を伝え、若者の支援サービス利用に繋げるためにできる工夫をいくつか提案しました。

発表の後には質問や意見が活発に飛び交い、多くの団体が今回の発表を受けて実際の運用に活かそうとする様子が見られました。また意見交換を通じて、ユーザー視点では見えにくい各団体の工夫や配慮を学ぶこともでき、支援団体と若者の対話の意義を再確認しました。豊島区の若者相談件数増加を目指し、引き続きユースグループとしてできることを模索し続けていきたいと思っております。



3. アドバイザリーの活動

3.1. 組織意思決定への参画

グローバルで組織の意思決定への若者の参画が謳われるようになり、2014年にユースグループが日本のプラン・インターナショナル(以下、プラン)に設置されました。プラン・ユースグループのアドバイザー担当に求められることは、理事会や役員定例会に出席し、ユース世代の意見や感覚を組織の事業推進や経営・運営に関わる課題に反映させることです。今年度は、理事会に2回、役員定例会に3回参加し、収支予算や事業内容、グローバル総会への参加活動報告などに対し、ユース目線で質問・意見を述べました。理事会・役員定例会の参加前には職員を招いた議題に関する勉強会に加え、ユース内でも事前ディスカッションを実施することで、自信を持ってユースの声を届けることができました。

役員定例会ではユースグループの活動報告を実施したほか、役員を巻き込んでディスカッションを行いました。ディスカッションでは、「ユースが今後もっと重点を置くべき活動」「プランにおけるユースのエンゲージメントを高めるためには」といったお題について、それぞれの経験や知見をもとに意見を交わしました。ディスカッションで出た意見やアイデアも参考にしつつ、次年度はユースが組織意思決定により一層密に関れるよう、目標や戦略を立てながら活動を進めていきたいです。

3.2. 国内支援事業

国内支援事業において、今年度はユースが主体的に関わるアドバイジング活動を3つ実施しました。1つ目は、わたカフェ職員が運営するTikTok投稿への助言、2つ目はわたカフェの無料で持ち帰ることができる生活応援グッズ、特に化粧品類に関する提案、3つ目は、わたカフェ潜入調査の実施です。それぞれの活動と、そこから見てきた課題について報告します。

【わたカフェ職員が運営するTikTok投稿への助言】

TikTokアドバイジングでは、わたカフェの潜在的な利用者層である高校生に向けた広報の強化を目的に、隔月で計3回のアドバイスをを行いました。担当者が投稿を一人で担っているという課題に対して、私たちは“チームでTikTokを運用する仕組み”を提案しました。この過程で、日々連携をとることで関係部署との信頼関係の構築にもつながったと感じました。一方で、TikTok運用によるわたカフェ運営への効果を設定することなく取り組み、なぜそこにユースの視点が必要なのか精査できていませんでした。プロジェクト目的の未設定など課題が残りました。そのため、ユースの力をどう活かすかについて、職員と共有・協働する体制づくりが今後の課題です。



アドバイジングは昨年3回実施。資料にまとめて職員に共有しました。

【生活応援グッズ】

生活応援グッズへのアドバイジングについては、実行には至らなかったものの、提案の過程を通じて得られた気づきや今後につながる視点が多くありました。特に、企画の背景には能登半島地震の支援事例があり、現地では化粧品などの多様な試供品が提供されたことによって、受け取った側が「被災者」として扱われていると感じずに済んだという声が寄せられていました。この体験をヒントに、わたカフェでも協賛企業と連携し、ユース視点で選定した化粧品などを提供することで、利用者にとって自然で前向きな支援のかたちを実現できるのではないかと考えました。しかし、この提案の実行にあたって他部署との連携や企業との調整におけるハードルがあり、今回は実現に至りませんでした。



プロジェクト発案の動機・今後の進め方などを記載し、職員に提案しました。

【わたカフェ潜入調査】

わたカフェを利用者にとってより良い居場所にするを目的として、潜入調査を行いました。わたカフェ職員には事前に伝えない状態でユースメンバーが一利用者としてわたカフェに訪問し、利用した際の感想やより良い場所になるためのアイデアを職員に共有しました。アドバイザリー活動の中でわたカフェの空間づくりに携わっていますが、実際の利用者として訪問してみると、空間を創る側の際には気が付かなかった利用へのハードルがあることを知ることができました。職員からも「ぜひこれからも続けてほしい！」という言葉ももらい、今後も継続して行いたい活動の一つとなりました。

今年度全体を通じての反省点として、わたカフェの現状や課題に関する理解が十分ではなく、職員と同じ目線で活動できていませんでした。そのため、次年度は、活動開始前に職員との対話を通じて目的や期待を共有し、そのうえで目標を設定していきたいです。このように、達成度を評価できるような体制をつくることで、より実効性のある活動を目指していきたいと考えています。

3.3. マーケティング・コミュニケーション部との連携

プランの新規寄付者獲得の役割を担うマーケティング・コミュニケーション部との連携は、大きく2つに分かれます。1つ目は、Instagram投稿内容に対するアドバイジング。2つ目は、イベント企画に対するアドバイジング及び当日運営です。

【Instagram投稿内容に対するアドバイジング】

プランの活動をより若者へ広げ、将来的な支援者の獲得につなげることを目的として、プラン事務局によるInstagramの投稿内容に対してアドバイジングを実施しました。活動にあたって、「ユース世代に届きやすいか」を意識しながら、良いと思う点や改善点を話し合いました。アドバイジング実施後には、事務局側からのフィードバックを得るためにアンケートを実施し、次回の提案に向けた課題を整理しました。一方で、今回のアドバイジングではユースメンバー以外の声を十分に反映することができなかった点が課題として挙げられます。特に、社会課題への関心が比較的低い層の意見を把握し、発信内容に活かしていくことは、今後の広報活動においても重要な視点になると考えています。こうした多様な声を取り入れるためにも、ユースに限らず様々な立場の人々の視点を代弁できるような関わり方を模索していきたいです。



【イベント企画に対するアドバイジング及び当日運営】

1. 国際女性デー

2025年3月7日に開催されたオンラインイベント「国際女性デー2025『制定50年目の挑戦～能條桃子さんと見つめる私たちの未来～』」に対するアドバイジング及び当日運営(ユースメンバーから2人が登壇)を行いました。

した。3月8日の国際女性デーが制定されてから50年という節目を迎えるにあたり、女性の権利向上の歩みを、NO YOUTH NO JAPAN代表の能條桃子さんをお招きして振り返りました。能條さんの基調講演「私たちの生きたい社会は、私たちでつくる」後には、ユースメンバー2人とのクロストークの時間も設けられ、ジェンダーにまつわる閉塞感について、実体験ベースの意見交換を行いました。当日は100名以上の方々にご参加いただき、満足度75%を達成しました。参加者のコメントや質問を積極的に取り上げ、議論をしたことが満足度の向上につながりました。



2. 国際ICTガールズ・デー(2025年)

2025年4月24日に開催されたイベント「国際ICTガールズ・デーイベント2025『ICTを味方につけて、私たちの未来をひらく』」に対するアドバイジングを行いました。準備段階では、スピーカー選定に関わったほか、約1か月にわたり週1回、マーケティング・コミュニケーション部と代理店とのミーティングに参加しました。ミーティングでは、イベント内容について学生としての率直な意見を届けつつ、イベント企画の進め方やスピード感を体感するなど学びの多い機会となりました。また、当日はアドボカシーからユースメンバーが1名登壇し、ゲストスピーカーにユース世代の立場から質問を投げかける形で参加しました。イベント終了後には、参加者から前向きな感想も聞くことができました。



3.4. 海外との連携

【プラン緊急人道支援責任者ウニ・クリシュナン氏との交流】

プランの人道支援に携わるウニ・クリシュナン氏(以下、ウニ氏)の来日に合わせ、ユースメンバーも交流の機会を持ちました。今回交流したのは、緊急人道支援の責任者であるウニ氏、アジア太平洋地域を担当するヴァンダ・レンコン氏(以下、ヴァンダ氏)、マラウイで子どもの保護に取り組むユースメンバー、バラカ・ダミエン氏(以下、バラカ氏)の3名です。ウニ氏からは、災害や紛争など、世界各地で緊急支援を必要とする人が増えている現状や、プランの支援体制について話がありました。最前線で動くのは常に現地の人々であり、外部からはそれを支える体制が重要だという言葉が印象的でした。緊急対応資金の仕組みや、発災から72時間以内に支援を開始するための「Ready to Respond」プログラムの存在も学びました。ヴァンダ氏からは、アジア太平洋15か国の若者支援や、気候変動とジェンダーに焦点を当てたリーダーシップ・アカデミーの活動を紹介していただきました。若者自身が情報発信やデータ収集に携わる姿は、私たち自身の活動にも重なる部分があり、大きな刺激となりました。バラカ氏は、難民としての自身の経験をもとに、心のケアや子どもの保護の重要性について話してくれました。特に「心の傷は見えづらいが、深く影響する」との言葉は、支援活動においてプランの日本事務局でも意識すべき点だと感じました。今回の交流を通して、若者が危機の現場で果たす役割の大きさと、それを支える国際的な連携の大切さを実感しました。



【プラン・オーストラリア/Advocacy and National Organisation(ANO) ユースメンバー ヤスミン・プール氏との交流】

10月には、オーストラリアのユースメンバーであるヤスミン・プール氏(以下、ヤスミン氏)との意見交換を行いました。ヤスミン氏は、8年間にわたりAdvocacy and National Organisation (ANO)ユースとして活動を続けており、多くの経験と知見を共有してくれました。交流では、ヤスミン氏がこれまで取り組んできたアドボカシー活動について話を聞きました。政策提言の活動を通じ、若者の声に耳を傾け、若者が社会を動かす力を持っていることを、実体験を通して語ってくれました。また、議論は日本社会に関する話題にも及び、日本の軍事化や防衛政策についての疑問や懸念が共有されました。ヤスミン氏の視点からは、平和を大切にす日本のイメージと現実との間にギャップを感じているようでした。この対話を通じて、国や文化の違いを超えて共通の社会課題に向き合い、若者が声を上げ行動する意義を改めて感じました。

【メンバーズ総会に関するルールブック(MAルールブック)の作成】

メンバーズ総会(Members Assembly 以下、MA)とは、プラン・インターナショナルを構成する各国事務局による最高意思決定機関です。現在、日本事務局からは、理事2名(うち1名はユースグループ出身者)が代表として参加し、グローバルレベルでのプランの方向性や戦略を決定する役割を担っています。プランは「子どもとともに進める地域開発」を掲げており、日本国内においても、理事会へのユースメンバーの参加・提言を積極的に進めてきました。さらに、こうした若者の声を、国内にとどまらずグローバルな意思決定の場にも反映していくことを目指しています。しかしながら、MAを含むグローバルな意思決定の仕組みは、組織構造や関係機関、参加者の役割など理解すべき情報が多岐にわたるため、ユースメンバーにとって十分に把握しきれないという課題がありました。そこで私たちは、MAの仕組みをわかりやすく整理した「MAルールブック」の作成に取り組みました。このルールブックでは、MAの構成や参加条件、ユースの役割、議論される主なテーマ(ビジョン・ミッションの策定、財務計画の承認、CEOの任命など)に加え、監督機関である国際理事会との関係性や、投票権の配分方法についても詳しく解説しています。これにより、プランがどのように国際的な合意形成と意思決定を行っているかを体系的に理解できるようになりました。今後は、MAやIBにおいても、日本のユースグループの意見をより効果的に反映できるよう、参加理事との連携をさらに強化していきたいと考えています。



3.5. 支援者との交流

25年度では、24年度から開始したユースグループとプランの支援者のグループである支援者の会との交流を行いました。本年度は、10月に多摩の会、11月には名古屋の会を訪問しました。これまで支援者の方々に私たちユースグループの活動を紹介する機会が少なかったため、交流の場では活動の紹介やジェンダーに関するワークを支援者の会の方々と共に行いました。

【多摩の会】

2024年10月19日、東京都多摩地域を中心に活動する支援者のグループ「多摩の会」のイベントに、アドバイザリーチームから6名が参加しました。本イベントは、多摩の会と一般の方々、合計9名が来場しました。10月1

1日の「国際ガールズ・デー」にちなみ、「いろんな世代で考え方ってどう違う？」というテーマのもと、日常生活の中にあるジェンダー意識について世代を超えて考える機会となるよう、コンテンツを準備しました。

プラン職員より団体の紹介と、絵本『世界じゅうの女の子のための日 国際ガールズ・デーの本』から女の子のストーリーの読み聞かせが行われました。続いて、ユースグループのアドボカシーチームとアドバイザリーチームの役割の違いや具体的な活動例を紹介しました。また、アドバイザリーが主に連携している国内支援事業グループによる「女の子の居場所 わたカフェ」の運営に関しても、利用状況や連携事例を交えて紹介しました。後半は、ユースグループのメンバーと参加者で4～5名の小グループをつくり、ディスカッション形式で「身近な経験からジェンダーについて考える」時間を設けました。アドバイザリーメンバーは各グループのファシリテーターを務め、『ジェンダー・ディスカッションブック SDGsで学ぶ！性別格差がない未来』から国際ガールズ・デーに関する議題を2つ選び、関連するデータを共有しながら活発な対話を進行了しました。

多摩の会は、支援歴の長い方も多く、ディスカッションでは「あるアジアの国では、男の子は学校へ行き、女の子は家で掃除をしている」という、途上国における深刻なジェンダー課題が議題に挙がりました。また、支援者の皆様のチャイルドとの関わり方を聞きました。プランの新聞広告や電車内広告を見てスポンサーになられた方、チャイルドとのやり取りを楽しみにしている方や、関心はありつつもまだ一步を踏み出せずにいる方など、それぞれの想いを聞くことができ、私たちにとっても学びの多い時間となりました。



【名古屋の会】

2024年11月9日に開催された名古屋の会へ、アドバイザリーチーム4名とアドボカシーチーム1名の計5名で伺いました。事前打ち合わせで、名古屋の会が抱える課題や、参加者のジェンダーに関する理解度を丁寧に把握したうえで、当日の内容を構成しました。

当日は二部構成で実施しました。第一部では、「『多様性』は身近なところに！？」をテーマに、参加者の関心が高かった途上国のジェンダー課題から、日本国内における日常的なジェンダー意識にまで視野を広げられるよう、ディスカッション型のコンテンツを企画・実施しました。続いて、職員より団体紹介をしました。その後、ユースメンバーより、アドボカシーチームとアドバイザリーチームの役割や活動内容、わたカフェの運営状況や支援事例についても共有しました。ディスカッションでは、小グループに分かれ、『ジェンダー・ディスカッションブック SDGsで学ぶ！性別格差がない未来』を用い、途上国におけるジェンダー課題と日本国内の課題を一つずつ

取り上げて意見を交わしました。第二部では、支援者のチャイルドや、そのチャイルドが暮らす国の状況、そして各地域でのプランの支援活動について知っていただく時間を設けました。ユースメンバーで用意した地域別の支援内容資料をもとに、支援者からはチャイルドとの心温まるエピソードや、現地訪問時のご経験などをお話いただきました。

名古屋の会は、プランへの想いがとても深く、その熱意に触れることで、私たち自身も活動へのモチベーションが一層高まりました。ジェンダーに関するディスカッションでは、世代を超えた対話を通して、私たちの世代では当たり前となりつつある価値観が、かつての日本では大きな壁として存在していたことを参加者の実体験から学ぶことができ、新鮮な気づきがありました。また、ご参加くださった多くの支援者の方が長年にわたり複数のチャイルドを支援されており、それぞれのチャイルドに対して強い思い入れを持っていらっしゃることも伝わってきました。支援を終えた今もなおチャイルドを想う気持ちに触れ、私たちも改めて支援の意義を実感することができました。



支援者との交流を通して感じたこと・今後の活動

今年度、全国各地の支援者の会と交流し、プランの活動を継続的に支えてくれている支援者の方々の温かい想いと深い愛情を、直接感じることができました。一人ひとりが「チャイルドのために」「プランのために」と真摯に行動されている姿に、私たちも強く心を動かされ、大きな刺激を受けました。一方で、多くの支援者の会では、リーダーの担い手不足やメンバーの高齢化、活動内容の継続的な企画の難しさなど、会の運営に関するさまざまな課題にも直面している現状を知る機会ともなりました。

次年度以降、私たちはユース世代を代表する立場として、これまでプランを長く支えてこられた皆様の想いを引き継ぎながら、同世代の若者にも関心を持ってもらえるような活動に取り組んでいきたいと考えています。

3.6. わたカフェの移転および事務所リフォームに関するアドバイジング

25年度では、プラン日本事務所が三軒茶屋オフィスと池袋オフィスの二拠点体制となり、あわせて国内支援事業グループが運営する「わたカフェ」の新拠点への移転が行われました。私たちアドバイザーチームも、このわたカフェ移転プロジェクトに参画しました。2024年3月ごろより、アドバイザーでは「地球にも優しいオフィス」を目指してアイデアをまとめた「Wish List」を作成し、事務局の担当者とともに、私たちが参画できるタイミングや内容について継続的に協議を行ってきました。プロジェクトでは、物件選定、オフィス移転支援業者の選定、わたカフェの内装・空間づくりといった各プロセスに関わりました。

物件選定では、職員とともに複数の候補物件を内見し、Wish Listの基準に照らして評価を行い、意見を共有しました。わたカフェは私たちと同世代の若者が利用する場でもあるため、利便性や設備に加え、「安心して通えるか」といった感情面の視点からもフィードバックを行いました。オフィス移転支援業者の選定においては、候補企業によるプレゼンテーションを聴講し、評価表を作成して事務局へ提出しました。私たちは、定期的にわたカフェの利用状況や利用者の声について職員から報告を受けており、そうした現場の声をもとに、どのような空間であればよりよい支援につながるかを想像しながら、評価項目を整理しました。また、モデルオフィスの見学にも同行し、具体的なイメージを膨らませる貴重な機会となりました。わたカフェの内装設計では、家具メーカーでのインターン経験を持つメンバーの知見や、これまでに得た利用者の声を活かし、求められる空間の理想像を可視化して提案しました。ナチュラルで温かみのある落ち着いた空間、利用者の年齢を意識した「少し大人っぽい雰囲気」をテーマに、家具や色味が空間全体に与える印象にも配慮しました。業者からは当初、わたカフェのテーマカラーを基調とした案が提案されていましたが、私たちがイメージを図や資料で可視化しながら具体的に共有したことで、「より現実的で利用者に寄り添った提案」として、職員からも高い評価をいただきました。



完成した新しいわたカフェには、アドバイザーチームのアイデアが細部にわたって反映されています。たとえば、収納に困っていた運営側の声と「横になって休めるスペースが欲しい」という利用者の声の両方に応える形で、収納機能を備えた畳の小上がりスペースの設置を提案し、採用されました。現在では、実際に多くの方がくつろげる人気のスペースとなっているとのことです。

これまでに受け取ったインプットや日々の連携の中で得た利用者・職員双方のニーズを形にすることができ、大きなやりがいを感じました。完成披露会では、共にプロジェクトを進めてきた事務局担当者と完成の喜びを分かち合うことができ、とても嬉しく思いました。今後も、利用者にとって居心地の良い空間づくりに貢献していけるよう、アイデアを提案し続けていきます。

3.7. 事務局内での認知度向上の取り組み

プランの職員に対して、ユースアドバイザーチームの認知度調査を2024年9月と2025年5月に実施しました。この調査は、ユースグループに対する職員の認識や期待を明らかにし、今後の事務局とユースグループのより良い関わり方を模索することを目的としたものです。質問項目には、ユースグループの活動内容に関する認知状況、過去の関わりの有無、ユースに期待することなどを含めました。調査の結果、多くの職員がユースグループの存在を認識しており、特に「役員会への参加」や「国内支援事業(わたカフェ)での活動」がよく知られていることが分かりました。また、「ユースの意見をもっと気軽に聞ける方法がほしい」といった前向きな声も多く、ユースグループに対する具体的な期待や高い関心がうかがえました。一方で、第1回調査では「ユースがどんなことに興味を持っているのかが分かりにくい」といった意見も寄せられました。こうした意見を踏まえ、職員とユースの距離を縮め、関わりやすい雰囲気をつくることを目指して、自己紹介Webページの作成に取り組みました。このページでは、活動内容やこれまでの取り組みに加え、メンバーの特徴や個性が伝わるよう、言葉選びやデザインにも工夫を凝らしています。視覚的にも分かりやすい構成とし、ユースの想いや姿勢が職員に伝わるコンテンツを目指しました。完成後は事務局内のメールで共有し、ユースグループの認知促進を図っています。今後も、こうした調査や情報発信を定期的に行いながら、ユースグループの活動をさらに広げ、職員とのつながりを深めていきたいと考えています。

また、今年度の後半より、ユースと職員との関係強化を目的として、「ランチセッション」という新たな取り組みを開始しました。2025年5月から、三軒茶屋および池袋の事務所を訪問し、お昼の時間帯に約3時間滞在し、職員の方々と昼食を共にしながら、これまでの活動の振り返りや今後に向けた意見交換を行っています。カジュアルな雰囲気の中で、これまでユースが関わった企画の進捗を報告してもらい、ユース側からは「今後こんなことに挑戦してみたい」といった提案を共有しました。また、「このグッズをユースの視点でどう思うか?」といった相談なども受け、双方向のコミュニケーションを実現できたことは、大きな成果と感じています。ランチセッションは、日常的な対話を通じて相互理解と信頼を深める貴重な機会であり、今後も継続的に実施していきたいと考えています。

4. アドボカシーの活動

4.1. 性的同意に関する調査・報告

プラン・ユースグループは学習指導要領改訂に向けて包括的性教育を推進するための活動を続けています。今年度は「性的同意」をテーマに、ユース世代が性や性的同意に関する意識調査を実施。その結果をもとに、教育内容の向上を目指した提言活動を実施しました。

対象者は高校生1000人とし、文部科学省が進める生命(いのち)の安全教育の内容、性的同意に関する理解度、性的同意をどこで学んだか、性教育について学校に何を求めるか、刑法改正にまつわる質問など、計12の項目についてFreeasyを利用してアンケート調査を実施しました。

その結果、性的同意について正しい認識を持つ高校生が多くいることが示唆されました。しかし、性的同意について6割以上が「学校で学ぶ機会があった」と回答したにも関わらず、68%が「性的同意について知らない・聞いたことはあるが説明できない」と回答しました。

性的同意について「知っていて説明もできる」と回答した人がどこで学んだかという質問に対し、「学校」と回答した人が最も多く、また78%が「性的同意について学校で教えてほしい」と回答しました。

以上のことから、高校生は性的同意について広く周知されているとは言い難いこと、学校教育が性教育において重要なプラットフォームとなり得ることが分かりました。これらを踏まえ、その内容を強調する形で意見交換のためのパンフレット(以下、画像参照)を作成しました。

2025年4月以降はアンケート調査の結果やパンフレットを活用し、関係省庁(文部科学省、内閣府)や国会議員と意見交換を実施しました。また、複数の新聞社に赴き、性的同意に関する課題を訴えました。これらの活動に対して、関係者からは非常に高い関心が寄せられました。議員訪問では十分な対談時間を確保し、性教育の現状や課題について深く議論することができました。事前準備として専門家への聞き取りを行うなど、入念な準備にも力を入れました。メディアアプローチでは新聞社による取材を受け、特にユースメンバー個人の体験談や意見を深掘りしていただき、それらの内容も記事に反映していただくことができました。今後も引き続き関係機関との連携や情報発信を通じて、性教育に関する議論のインパクトを広げていきたいと考えています。

【活動報告】

68%が「知らない」「説明できない」～性的同意についてプラン・ユースグループが高校生1,000人に調査～(プランHPより)

https://www.plan-international.jp/news/20250414_18876/

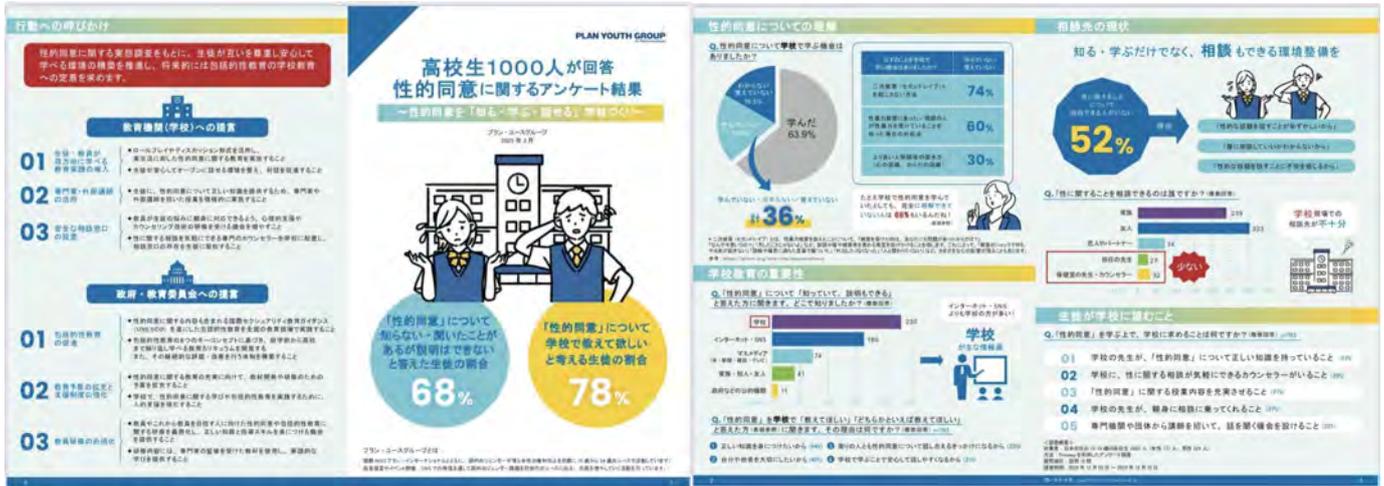
【メディアリリース】

プラン・ユースグループが高校生1,000人に「性的同意」に関する調査を実施(PR TIMESより)

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000256.000012939.html>

【作成した報告書】

「高校生1000人が回答 性的同意に関するアンケート調査～性的同意を「知る・学ぶ・話せる」学校づくり～」(https://www.plan-international.jp/activity/advocacy/youth/pdf/2504_sexual_consent_survey.pdf)



【省庁訪問】



(写真左:内閣府男女共同参画局 / 写真右:文部科学省総合教育政策局)



(議論の内容は、こちらのInstagramの投稿からご覧いただけます)

【議員訪問】



(写真左:石井苗子参議院議員を訪問 / 写真右:議論の様子)

4.2. SNS等による発信

SNS担当では、前年度の反省(マンパワー不足とユースグループの独自性の発信)を踏まえて、以下の活動を行いました。

1. 継続的な投稿計画と投稿内容の見直し

● 投稿ペースについて

前年度までは月別トピック(年度ごとのテーマに合わせた投稿で、今年度は性にまつわるトピックを発信した)と、時事トピック(ジェンダーに関するニュースをもとにした投稿)を週1ペースで投稿する計画を立てていましたが、メンバーの負担が大きかったため、週2ペースに変更しました。年間計画は、メンバーの忙しい時期を予め把握した上で担当者を決定し、マンパワー不足の解消に努めました。また、各月には投稿スケジュールを共有し、タイムマネジメントを強化しました。

● 投稿内容について

月別トピック(ピンク色の枠)、活動報告(青色)、時事トピック(黄色)、国際デー(水色)、ジェンダーに基づく暴力と闘う16日間(オレンジ色)の5種類の投稿を作成しました。

月別トピックは、性にまつわるトピックに焦点を当て、前年度まで投稿してきたもの(包括的性教育、LGBTQ、SRHRなど)に加え、今まであまり扱ってこなかったもの(第二性徴、セルフプレジャー、性産業)についても扱いました。

活動報告は、他団体のイベント参加報告や調査提言の提出といった従来の活動報告に加え、横浜市男女共同参画センターのみなさんとの対談や、わたカフェインタビュー企画を実施しました。

時事トピックは、世間で話題になっているニュースを幅広く発信しました。例えば、女性差別撤廃委員会の日本審査や都道府県別男女の賃金格差などジェンダー課題に密接に関わるものから、石破内閣(衆議院選挙)や日本のテレビ業界などをジェンダーの視点から振り返る投稿も作成しました。

国際デーは、直接的にジェンダーと関わるもの(若年層の性暴力被害予防月間、平等な賃金の国際デー、国際男性デーなど)と、直接的にジェンダーと関わらないもの(世界環境デー、世界保健デー)の両方を扱いました。

ジェンダーに基づく暴力と闘う16日間では、フィード投稿とストーリー投稿を交互に載せることでキャンペーンを盛り上げました。具体的には、投稿の前日に次の投稿に関するクイズを載せ、翌日に答え合わせを行いました。



2. ストーリーの活用と両チームの活動の可視化

かねてより、ユースグループの独自性をより発信したい、ユースグループに興味関心のある方に活動内容を知ってもらいたい、ストーリーの投稿頻度を増やすことでSNSが動いている状態にしたいという思いがありました。そのため、アドボカシーチームとアドバイザーチームのミーティング内容と、時事トピックに対する意見交換の内容(載せているのはアドボカシーチームのもの)の2点を毎週ストーリーに共有しました。これまでアドボカシーチームの活動を中心に投稿してきたため、アドバイザーチームが普段どのような活動を行っているのか知ってもらう機会となりました。今後は、ストーリーにとどまらず、フィード投稿でもアドバイザーの活動報告(支援者の会や海外ユースとの交流など)を載せていきたいと考えています。



3. インスタグラムの分析とフィードバック

12月にInstagramの分析を行いました。対象は昨年度と今年度のフィード投稿とストーリー投稿で、それぞれいいね数やリーチ数などをまとめることで、これまでの成果と改善点を洗い出しました。結果として、いいね数やリーチ数が増加傾向にある反面、トピックごとに伸びが大きく異なることや、ストーリー閲覧者数にバラつきがあることなどの改善点が得られました。

また、分析を受けてのメンバーからのフィードバックの一部を以下に記載します。

- 今年度は全体的な投稿のクオリティが高いと思った。それがコンスタントないいいね数に繋がったのではないか。
- いいね数などの平均値が上がっている実感はあるが、フォロワー数に対していいね数が少ない印象があるので、もう少し伸ばしたい。
- (ストーリーを何枚も載せるほど閲覧者が下がることに対して)フィードもストーリーも2枚目以降を見てもらわなければ伝えたいことを伝えられない。掴みの重要さをどうすべきか検討したい。
- いいね数が多い投稿はどのような要素で伸びたのかを深く分析していく必要があると思う。
- 自分事として考えやすい身近なトピックだけでなく、少しレベルアップした内容を取り入れてもいいかもしれない。
- ユースグループのカラーをもっと出して意外性のある切り口を模索していきたい。
- サイトベースでアプローチする人も一定数いる。管理するアカウントが増えてしまうのが懸念点だが、noteを運用するのはどうだろう。

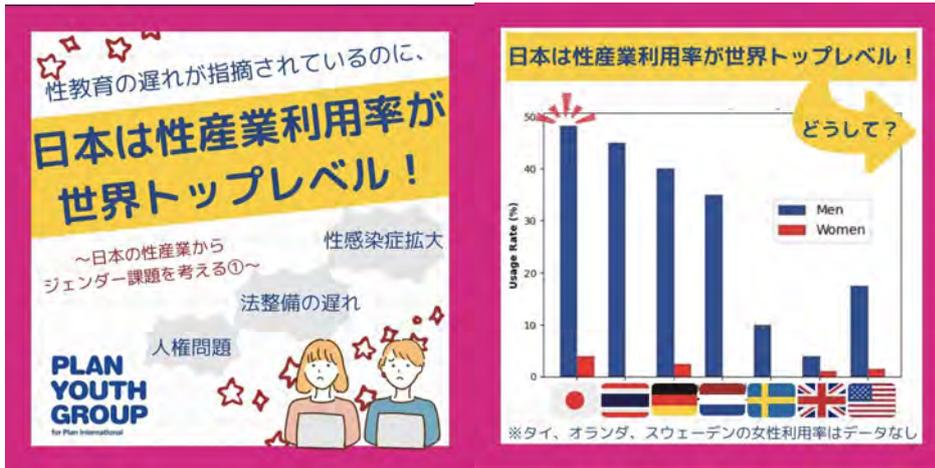
これらのフィードバックを受けて、2月にはSNSチーム内でSNSマーケティングの勉強会を実施し、主にInstagram運営の基礎知識をインプットしました。勉強会ではSNSマーケティングについて各自が調べてきたことを発表し、優先課題を検討しました。1番優先すべきは「フォロワーのニーズを知ること」という結論に至り、ペルソナの再設定と、YAPのインスタグラムに期待することを知るためのアンケート(今年度実施予定)を企画しました。ペルソナに関しては、ジェンダーに関心があるユースと、ジェンダーに関心がある、あるいはジェンダー課題そのものに関心がなくても何かしらにモヤッとしている男性のユースに決めました。特に、男性にリーチしたいという思いがあるため、男性がシェアしやすい投稿を今度も模索していきます。

(今年度、プラン・ユースグループのInstagramアカウントのフォロワー数は、昨年度末の約1200人から1500人超まで増加しました。)

● 特に「フォロワー数」が多かったフィード投稿



● 特に「いいね数」が多かったフィード投稿



● 特に「シェア数」が多かったフィード投稿





4.3. その他の活動

- マリウス葉さんとの対談取材(集英社「SPUR(シュプール)」創刊35周年記念企画)【7月末に対談実施、10月に動画公開】<https://www.youtube.com/watch?v=NWRjghinGNo>
- Girl's Labジェンダーもやもや座談会取材【8月に座談会実施、11月に記事公開】<https://www.plan-international.jp/girlslab/gender moyamoya/>
- 男女共同参画センター横浜北(アートフォーラムあざみ野)訪問&対談【9月中旬】



- #ピルコンルーム no.40「性をsayする #ピルコンユースフェス」に参加【9月21日】プラン・ユースグループの活動を紹介しました。

活動報告

#ピルコンルーム no.40
「性をsayする
#ピルコンユースフェス」

プラン・ユースグループの
活動紹介をしました！



PLAN YOUTH GROUP
by Plan International

今回、プラン・ユースグループのメンバーが「活動紹介発表者」として登壇し、私たちの活動について紹介させていただきました！

参加したメンバーの感想

今回のイベントでは、同じように性教育やジェンダーにまつわる活動をしているユースとたくさん交流したり、登壇者の方々のディスカッションをお伺いしたり、とても充実した時間となりました。

またジェンダーの様々な切り口の中で、包括的性教育という「教育」に焦点を当てる意義を再確認する機会にもなりました！




- SRHRスタンディングアクションにスピーカーとして登壇【9月27日】
SRHRに関する理解を広めることを政府や教育関係者に要望しました。



活動報告 /

SRHR
スタンディングアクション2024



写真: 公益財団法人ジョイセフ
PLAN YOUTH GROUP
by Plan International

ユースメンバー
のスピーチ
(一部抜粋)



この社会の中で私たちは、自分とは異なる多様な他者と関わり合いながら生きています。その過程で、私たちに、自分自身の身体をどう扱うかに関する決定をし、そして、その選択を他者に尊重される権利があります。私たちの身体の健康は私たちの精神的な健康と切り離すことはできません。ユースグループとして今後もSRHRという言葉にまつわる一つ一つの想いを大事に、全ての人にとってSRHRが生まれながらに持つ当たり前の権利となるよう、これからも連帯していけたらと思います。



● 「民主主義ユースフェスティバル2025」に出展【3月15日、16日】

性的同意に関するワークショップや、ジェンダーもやもや4コマ漫画(2024年度作成)の展示を実施しました。



(写真左:ワークショップの様子/写真右:参加者のジェンダーもやもや)



(当日参加したユースグループのメンバーたち)

民主主義ユースフェスティバル2025

2025年3月15日・16日
@駒沢オリンピック公園

ご来場ありがとうございました!

PLAN YOUTH GROUP
BY PLAN INTERNATIONAL

～参加したメンバーの感想～

- 4コマ漫画をきっかけに会話が生まれていて楽しかった!
- 同世代の活躍に刺激をもらった!
- 普段関わらない人や団体と交流できた!
- 他団体との関係構築の機会を作れた!
- 政治家の方も真摯に耳を傾けてくれた!



3月28日にシェアされた投稿
作成者: YOUTH_PLAN.JAPAN

● もやもや4コマ漫画展示

昨年度作成した「ジェンダーもやもや、燃やそう！4コマ漫画」を、各自治体の男女共同参画センターから要請を受けて展示しました。（「ジェンダーもやもや、燃やそう！」4コマ漫画展示会の開催報告はこちらから→https://www.plan-international.jp/news/20240614_info-2/）

2024年6月13日～29日 男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)

2024年7月17日～ 男女共同参画センター横浜北(アートフォーラムあざみ野)

2024年10月～ 男女共同参画センター横浜(フォーラム)

2024年11月9日・10日 東京ウィメンズプラザ

2025年3月(国際女性デー記念) 摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつ

2025年5月16日～7月7日 大田区立男女共同参画センターエセナおおた

